8　各飼料添加物の成分規格及び製造の方法等の基準

⑴～(140)　（略）

(141)　フィターゼ

フィターゼ（その１）

（略）

フィターゼ（その２の⑴）

ア　製造用原体

㋐　成分規格

酵素力単位　（略）

物理的・化学的性質

（略）

純度試験　（略）

強熱残分　（略）

酵素力試験　フィチン酸分解力試験法第２法により試験を行う。

試料溶液の調製　ポリソルベート20　0.1ｇ（0.05～0.14ｇ）に0.25mol／Ｌ酢酸ナトリウム塩酸混液（pH5.5）を加えて溶かし、更に同混液を加えて１Ｌとしたものを希釈液とする。試料について試験を行うために必要な量を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、１mL当たりの濃度が50フィチン酸分解力単位となるように希釈液を加え、激しく撹拌して溶かし、試料原液とする。この原液適量を全量ピペットを用いて量り、１mL当たりの濃度が0.5フィチン酸分解力単位となるように希釈液を加え、試料溶液とする。

㋑～㋓　（略）

イ　製剤（その１　液状）

（略）

ウ　製剤（その２）

㋐　成分規格

（略）

酵素力単位　（略）

酵素力試験　フィチン酸分解力試験法第２法により試験を行う。

試料溶液の調製　ポリソルベート20　５ｇ（4.5～5.4ｇ）及び牛血清アルブミン0.6ｇ（0.55～0.64ｇ）に0.25mol／Ｌ酢酸ナトリウム塩酸混液（pH5.5）を加えて溶かし、更に同混液を加えて１Ｌとして抽出液とする。希釈液については、フィターゼ（その２の⑴）製造用原体を準用する。試料について試験を行うために必要な量を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、１mL当たりの濃度が50フィチン酸分解力単位となるように、抽出液を加え、トライアングル回転子を用いて激しく撹拌しながら20分間超音波処理し、更に20分間激しく撹拌して溶かした後、毎分14,000回転で３分間遠心分離し、その上澄液を試料原液とする。この原液適量を全量ピペットを用いて量り、１mL当たりの濃度が0.25フィチン酸分解力単位となるように希釈液を加え、試料溶液とする。

㋑・㋒　（略）

8　各飼料添加物の成分規格及び製造の方法等の基準

⑴～(140)　（略）

(141)　フィターゼ

フィターゼ（その１）

（略）

フィターゼ（その２の⑴）

ア　製造用原体

㋐　成分規格

酵素力単位　（略）

物理的・化学的性質

（略）

純度試験　（略）

強熱残分　（略）

酵素力試験　フィチン酸分解力試験法第２法により試験を行う。

試料溶液の調製　ポリソルベート20　0.1ｇ（0.05～0.14ｇ）に0.25mol／Ｌ酢酸塩酸緩衝液を加えて溶かし、更に同緩衝液を加えて１Ｌとしたものを希釈液とする。試料について試験を行うために必要な量を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、１mL当たりの濃度が50フィチン酸分解力単位となるように希釈液を加え、激しく撹拌して溶かし、試料原液とする。この原液適量を全量ピペットを用いて量り、１mL当たりの濃度が0.5フィチン酸分解力単位となるように希釈液を加え、試料溶液とする。

㋑～㋓　（略）

イ　製剤（その１　液状）

（略）

ウ　製剤（その２）

㋐　成分規格

（略）

酵素力単位　（略）

酵素力試験　フィチン酸分解力試験法第２法により試験を行う。

試料溶液の調製　ポリソルベート20　５ｇ（4.5～5.4ｇ）及び牛血清アルブミン0.6ｇ（0.55～0.64ｇ）に0.25mol／Ｌ酢酸塩酸緩衝液を加えて溶かし、更に同緩衝液を加えて１Ｌとして抽出液とする。希釈液については、フィターゼ（その２の⑴）製造用原体を準用する。試料について試験を行うために必要な量を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、１mL当たりの濃度が50フィチン酸分解力単位となるように、抽出液を加え、トライアングル回転子を用いて激しく撹拌しながら20分間超音波処理し、更に20分間激しく撹拌して溶かした後、毎分14,000回転で３分間遠心分離し、その上澄液を試料原液とする。この原液適量を全量ピペットを用いて量り、１mL当たりの濃度が0.25フィチン酸分解力単位となるように希釈液を加え、試料溶液とする。

㋑・㋒　（略）